
関東大震災関連 古書重要書

「大正震災志」（1926）内務省社会局

最重要な国の公式記録。政府諸機関と地方自治体とが、どのように対応したかを記録することを第一の目的として編集され、英語版も刊行された。この資料は国立国会図書館近代日本アーカイブで Web 閲覧できる。

Web 閲覧：<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/981915>

「震災予防調査会報告書」100号甲～戊（1926）震災予防調査会

1892年に濃尾地震を受けて設立された震災予防調査会が刊行した、関東大震災で最重要な学術報告書。

「東京震災録」1～4（1926～1927）東京市

東京市の公式記録で、政府から住民に至る5分冊の膨大な記録集。

「大正十二年 関東大地震 震害調査報告」1～3（1926～1927）土木学会

土木学会の調査報告書。この資料の1巻は国立国会図書館近代日本アーカイブで Web 閲覧できる。

Web 閲覧：<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000039-I001554962-00>

「横浜市震災誌」（1926～1927）横浜市役所 市史編纂室編

当時の横浜市街地は桜木町～関内付近で、主要地域が焼失した。横浜の被害については、横浜市立中央図書館/関東大震災を調べる/のサイト上で、この資料を始め、地図や写真、新聞など様々な資料が Web 閲覧できる。

Web 閲覧：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/shinsai/>

「東京府大正震災誌」（1925）東京府

大震災火災，宮廷，救護，救援，経済，土木，統計，学術記録等を収録

「神奈川県震災誌」（1927）神奈川県

神奈川県下の各市町村別被害の総集。横浜市が半分を占めている。

「大正12年 鉄道震害調査書」（1923）鉄道省

膨大な被害写真と図面が中心の土木工学的報告書

「大正大震災誌」 警視庁 （1924）

警戒，救護，衛生医療，治安保持，行方不明捜索，消防，各署の活動等を収録

「大正大震災誌」 神奈川県警察部（1926）

災害の状況，警備・救護施設，検問所，流言・自警団の取締，救済，保護・陸海軍の警護・救援，地震と気象，雑録等を収録

「帝都復興事業誌」（1932）復興事務局

災害復興のため後藤新平を中心に帝都復興計画が策定され，昭和5年（1930年）に行われた帝都復興祭で締め括られた。区画整理，公園，小学校などが造られたが，当初の予定からは大幅に規模は縮小した。この資料は国立国会図書館近代日本アーカイブで Web 閲覧できる。

Web 閲覧：<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1465926>

「横浜復興誌」（1932）横浜市

復興計画により横浜駅の移設（当時は高島町付近にあった），瓦礫により埋め立てられた山下公園の開園などが行われた。現在も横浜に残る歴史的建造物は震災後～昭和初期に建てられたものが多い。